

11. 飼料作物優良品種の選定試験

1) どうもろこし

1) - 1 普通作どうもろこし

草地飼料科：園田裕司・山下恒由

要 約

早晩性別に本県における適応性を検討した結果、早生種において乾物収量が標準品種（P3352）より高い品種は多く、特にセシリア、P3335が多収であった。早中生種では乾物収量はDK652が高く、乾物雌穂重割合は8388が高かった。中生種では乾物収量が高かった品種はKD741であった。中晩生種においては、全品種とも高い成績を示したが、特にはたゆたかは収量性、耐倒伏性が高かった。

緒 言

中耕・培土 5月21日

サイレージ用どうもろこしの主要品種について、収量性、耐倒伏性、耐病性等を調査し、本県における適応性を検討し奨励品種選定の参考に資する。

結果及び考察

試験方法

1. 試験期間

平成8年4月12日～8月9日

2. 試験場所

長崎畜試試験畑（雲仙系火山灰土・埴壤土）

3. 供試品種

表1に示す。

4. 試験規模

1区9㎡3反復

5. 耕種概要

1) 播種期 平成8年4月12日

2) 耕種法 畦幅75cm, 株間20cm, 3粒点播1本
仕立て

3) 施肥量 (kg/a)

基肥 N:1.0, P₂O₅:1.5, K₂O:1.0

追肥 N:0.5, K₂O:0.5 (5-6葉期)

苦土石灰 10 堆肥 200 ようりん 4

4) 薬剤散布

(1) 除草剤 プロメトリン・メトラクロール粉粒剤 (播種直後)

(2) 殺虫剤 ダイアジノン粒剤 (播種直後)
NAC粒剤 (生育中期)

5) 栽培管理

補 植 5月21日

間引き 5月21日

1. 気象概要

平均気温は、4月が平年よりやや低めに推移した他はほぼ平年並みであった。

試験期間の全降水量は、5月が少雨だったことから平年（約1050mm）に比べて200mm程少なく、約820mmであった。日照時間は平年よりやや多く、平年比110%であった。

2. 生育概要

試験期間中、気象条件に恵まれ良好な生育を示した。早生種で、倒伏や不稔の発生が目立ったが、中晩生種ではほとんど倒伏もなく、乾物収量、乾物雌穂重割合が高かった。

3. 収量性

1) 早生種：乾物収量が、標準品種のP3352を上回った品種は多く、特にセシリア、P3335、P3310が多収であった。P3699、P3730はやや低収であった。

2) 早中生種：乾物収量は、DK652が最も高かった。8388は、不稔の発生が少なく乾物雌穂重割合が高かった。

3) 中生種：乾物収量が、標準品種のP3358を上回った品種はKD741、DK789であったが、乾物雌穂重割合がやや低かった。

4) 中晩生種：全供試品種が、標準品種のさとゆたかを上回った。全品種とも不稔の発生が少なく、乾物雌穂重割合、TDN収量が高かった。特に、ゆめそだち、P3156、はたゆたかは、乾物

雌穂重割合が高かった。

4. 耐倒伏性

- 1) 早生種：FFR747, NS-540A, DK623, P3699, P3335の5品種が標準品種と比較して耐倒伏性が高かった。特にDK623とNS-540Aが高い耐倒伏性を示した。
- 2) 早中生種：KD721が高い耐倒伏性を示した。
- 3) 中生種：総じて高い耐倒伏性を示したが、特にKD751が高かった。
- 4) 中晩生種：総じて高い成績を示した。特にTX128, 0816, SH3980は突出した成績であった。

5. 不稔発生率

不稔の発生が無かった品種はDK566, P3335の2

品種であった。中晩生種の品種は、全体的に不稔発生率が低かった。

6. 総合評価

- 1) 早生種：乾物収量は、セシリア, P3335が高かった。乾物雌穂重割合, 耐倒伏性の高いNS-540Aは有望である。
- 2) 早中生種：収量性において, DK652は有望であるが, 耐倒伏性にやや劣る。
- 3) 中生種：KD741は収量性において有望である。
- 4) 中晩生種：乾物収量が高い品種が多かった。収量性, 耐倒伏性, 乾物雌穂重からはたゆたかが有望である。

表1 供試品種

No.		流通品種名	系統名	カタログRM	販売会社名
1	標準	パイオニア3352	P3352	118	パイオニア
2	比較	ゴールドデントXL61	XL61	112	カネコ
3	比較	クミアイデント101F	FFR747	118	全農
4		パイオニアセシリア	セシリア	115	パイオニア
5		ゴールドデントDK566	DK566	113	カネコ
6		ゴールドデントKD651	KD651	115	カネコ
7		NS-540A	NS-540A	117	日総
8		スノーデント114	DK623	114	雪印
9		パイオニア3699	P3699	107	パイオニア
10		パイオニア3730	P3730	-	パイオニア
11		パイオニア3335	P3335	-	パイオニア
12		パイオニア3310	P3310	-	パイオニア
13		スノーデント119	DK652	119	雪印
14		カーギル6227	6227A	115-8	カーギル
15		ゴールドデントKD721	KD721	122	カネコ
16		クミアイデント8388	8388	122	全農
17	標準	パイオニア3358	P3358	125	パイオニア
18		ゴールドデントDK789	DK789	125	カネコ
19		ゴールドデントKD751	KD751	125	カネコ
20		ゴールドデントKD741	KD741	124	カネコ
21	標準	さとゆたか	都交B47	132	九州農試
22		ロイヤルデントTX128	TX128	128	タキイ
23		パイオニア3472	P3472	127	パイオニア
24		パイオニア3156	P3156	127	パイオニア
25		ゆめそだち	九交B78	-	九州農試
26		スノーデント127	G4655	127	雪印
27		はたゆたか	九交B68	-	九州農試
28		クミアイデント0816	0816	127	全農
29		スノーデント130Y	SH3980	130	雪印
30		-	九交B88	-	九州農試

表2 生育調査成績

早晩性	系統名	発芽期 月日	発芽 良否	初期 生育	雄穂 抽出期	絹糸 抽出期	収穫期	収穫期 熟度	稈長 cm	着雌 穂高	着雌穂 高率%	不稔率 %	倒伏率 %	虫害 %
早生	P3352	4.25	1	1	6.28	7.2	8.2	黄中	189	119	63.0	23.3	64.4	0
	XL61	4.25	1	1	6.25	7.3	8.5	黄中	187	108	57.8	3.3	81.1	0
	FFR747	4.25	1	1	7.2	7.2	8.5	黄中	187	113	60.4	3.3	20.0	0
	セシリア	4.24	1	1	6.28	7.1	8.2	黄中	190	124	65.3	10.0	77.8	0
	DK566	4.25	1	1	6.25	6.26	7.31	黄中	193	116	60.1	0.0	77.8	0
	KD651	4.25	1	1	6.25	6.29	7.31	黄中	189	105	55.6	10.0	81.1	0
	NS-540 A	4.25	1	1	6.28	6.30	7.31	黄中	178	112	62.9	3.3	18.9	0
	DK623	4.25	1	1	6.27	7.3	8.5	黄中	201	107	53.2	6.7	13.3	0
	P3699	4.25	1	1	6.27	6.29	8.2	黄中	193	91	47.2	26.7	23.3	0
	P3730	4.25	1	1	6.26	6.28	7.31	黄中	180	100	55.6	6.7	36.7	0
	P3335	4.25	1	1	6.30	7.1	8.2	黄中	205	114	55.6	0.0	20.7	0
	P3310	4.25	1	1	6.28	7.1	8.2	黄中	192	123	64.1	6.7	90.0	0
	早中生	DK652	4.25	1	1	6.28	6.30	8.2	黄中	197	102	51.8	13.3	43.3
6277 A		4.26	1	1	6.28	6.29	7.31	黄初	180	108	60.0	3.3	48.9	0
KD721		4.25	1	1	6.29	7.1	8.2	黄中	187	95	50.8	13.3	10.0	0
8388		4.25	1	1	6.29	7.1	8.2	黄中	191	107	56.0	3.3	20.0	0
中生	P3358	4.25	1	1	6.29	7.3	8.5	黄中	199	113	56.8	3.3	21.1	0
	DK789	4.25	1	1	6.29	7.2	8.5	黄中	188	112	59.6	3.3	30.0	0
	KD751	4.26	1	1	7.2	7.4	8.8	黄中	178	98	55.1	16.7	7.8	0
	KD741	4.26	1	1	7.1	7.3	8.5	黄中	198	114	57.6	3.3	20.0	0
中晩生	さとゆたか	4.25	1	1	7.2	7.6	8.8	黄中	197	100	50.8	0.0	4.4	0
	TX128	4.26	1	1	7.6	7.8	8.9	黄中	184	97	52.7	0.0	0.0	0
	P3472	4.26	1	1	7.4	7.7	8.9	黄中	188	104	55.3	0.0	2.2	0
	P3156	4.25	1	1	7.2	7.4	8.8	黄中	205	114	55.6	0.0	16.7	0
	ゆめそだち	4.25	1	1	7.1	7.3	8.5	黄中	181	100	55.2	0.0	5.6	0
	G4655	4.26	1	1	7.4	7.7	8.9	黄中	205	108	52.7	0.0	2.2	0
	はたゆたか	4.26	1	1	7.3	7.6	8.8	黄中	207	109	52.7	0.0	6.7	0
	O816	4.26	1	1	7.6	7.8	8.9	黄中	187	95	50.8	3.3	0.0	0
	SH3980	4.26	1	1	7.6	7.8	8.9	黄中	212	111	52.4	0.0	0.0	0
	九交 B88	4.26	1	1	7.1	7.3	8.5	黄中	182	106	58.2	3.3	1.0	0

表3 生育調査成績

早晩性	系統名	生草収量 (kg/a)			乾物収量 (kg/a)			対標比 %	乾雌穂 重割合%	栄養収量 (kg/a)		TDN 割合 %
		茎葉	雌穂	総重	茎葉	雌穂	総重			DCP	TDN	
早生	P3352	479	91	570	113.3	47.8	161.1	-	29.7	8.6	106.6	66.2
	XL61	471	71	542	122.5	38.7	161.2	100.1	24.0	8.4	104.2	64.6
	FFR747	573	139	712	109.6	75.4	185.0	114.8	40.8	10.3	127.9	69.1
	セシリア	483	121	605	115.1	63.7	178.8	111.0	35.6	9.7	121.1	67.7
	DK566	454	120	574	110.2	63.3	173.5	107.7	36.5	9.5	117.9	68.0
	KD651	533	57	590	134.1	28.7	162.8	101.1	17.6	8.3	102.4	62.9
	NS-540 A	494	142	636	101.0	70.4	171.4	106.4	41.1	9.5	118.6	69.2
	DK623	472	106	577	114.6	59.8	174.4	108.3	34.3	9.5	117.5	67.4
	P3699	433	59	492	111.8	32.8	144.6	89.8	22.7	7.5	92.9	64.3
	P3730	335	111	446	84.2	61.4	145.6	90.4	42.2	8.1	101.2	69.5
	P3335	523	136	659	108.7	70.2	178.9	111.0	39.2	9.9	122.9	68.7
	P3310	546	99	644	129.9	51.9	181.8	112.8	28.5	9.6	119.7	65.9
	早中生	DK652	520	127	647	123.4	65.1	188.5	-	34.5	10.2	127.2
6277 A		489	127	616	113.3	62.9	176.2	93.5	35.7	9.6	119.4	67.8
KD721		493	104	597	125.3	54.0	179.3	95.1	30.1	9.6	118.8	66.3
8388		513	126	639	116.2	65.6	181.8	96.4	36.1	9.9	123.4	67.9
中生	P3358	469	154	622	93.4	81.8	175.2	-	46.7	10.0	123.9	70.7
	DK789	595	137	732	115.4	65.9	181.3	103.5	36.3	9.9	123.2	67.9
	KD751	505	116	621	109.0	61.9	170.9	97.5	36.2	9.3	116.1	67.9
	KD741	540	120	660	122.6	63.1	185.7	106.0	34.0	10.1	125.0	67.3
中晩生	さとゆたか	492	158	650	97.2	80.8	178.0	-	45.4	10.1	125.3	70.4
	TX128	474	142	616	100.2	80.9	181.1	101.7	44.7	10.2	127.1	70.2
	P3472	498	169	667	100.3	91.9	192.2	108.0	47.8	11.0	136.5	71.0
	P3156	517	176	693	95.1	96.2	191.3	107.5	50.3	11.0	137.1	71.7
	ゆめそだち	522	205	727	95.2	102.5	197.7	111.1	51.8	11.4	142.5	72.1
	G4655	615	151	766	128.5	80.5	209.0	117.4	38.5	11.5	143.2	68.5
	はたゆたか	614	191	804	100.3	97.7	198.0	111.2	49.3	11.4	141.4	71.4
	O816	481	145	626	104.0	78.0	182.0	102.2	42.9	10.2	126.8	69.7
	SH3980	599	175	774	119.9	89.6	209.5	117.7	42.8	11.7	145.9	69.7
	九交 B88	504	152	656	101.8	76.1	177.9	99.9	42.8	10.0	123.9	69.7

1) - 2 遅播きとうもろこし

草地飼料科：園田裕司・山下恒由

要 約

試験期間中、気象条件に恵まれ倒伏などの物理的被害もなく、全品種とも順調な生育を示した。乾物収量はNS88Aが特に高かったが、他の品種も標準品種(P3470)並であった。不稔の発生はみられなかった。乾物雌穂重割合はTX128, NS88Aが高かった。南方さび病は、全品種発生し、発生程度はNS88Aが標準品種並で他は高かった。

緒 言

サイレージ用とうもろこしの遅播き用品種について、収量性、耐倒伏性、耐病性等を調査し、本県における適応性を検討し奨励品種選定の参考に資する。

試験方法

1. 試験期間

平成8年7月16日～10月17日

2. 試験場所

長崎畜試試験畑(雲仙系火山灰土・埴壤土)

3. 供試品種

表1に示す。

表1 供試品種(二作目)

No.	流通品種名	系統名	販売会社名
1	標準 パイオニア3470	P3470	パイオニア
2	ゴールドデントKD772	KD772	カネコ
3	ロイヤルデントTX128	TX128	タキイ
4	クミアイデント0816	GX0816	全農
5	サイレージコーンNS88A	NS88A	日総

4. 試験規模

1区9㎡3反復

5. 耕種概要

1) 播種期 平成8年7月16日

2) 耕種法 畦幅75cm, 株間20cm, 3粒点播1本
仕立て

3) 施肥量(kg/a)

基肥 N:1.0, P₂O₅:1.5, K₂O:1.0

追肥 N:0.5, K₂O:0.5(5-6葉期)

苦土石灰 10 堆肥 200 ようりん 4

4) 薬剤散布

(1) 除草剤 プロメトリン・メトラクロール粉粒剤(播種直後)

(2) 殺虫剤 ダイアジノン粒剤(播種直後)
NAC粒剤(生育中期)

5) 栽培管理

補植 8月9日

間引き 8月9日

中耕・培土 8月9日

結果及び考察

1. 気象概要

試験期間を通じて気象条件に恵まれ、平均気温は、ほぼ平年並みであった。

降水量は、10月上旬が少雨だった他はほぼ平年(約660mm)並であった。日照時間は9月にやや多かったものの、全期間を通してはほぼ平年並の値となった。

2. 生育概要

試験期間中、天候に恵まれ全品種とも良好な生育を示した。雌穂の稔実も良好で、乾物雌穂重割合は全種40%を越えた。台風等の襲来が無かったため倒伏の発生は無かった。

3. 生育及び収量成績

1) 収量性：全試供品種が、標準品種のP3470の乾物収量を上回り、高い収量性を示した。乾物雌穂重割合では全品種とも40%を越えており、特にTX128, NS88Aが高い値を示した。

2) 耐病性：南方さび病抵抗性は、NS88Aが標準品種並で、他はやや低かった。

4. 総合評価

収量性、TX128, NS88Aが有望で、南方さび病抵抗性についてはNS88Aが標準品種並であった。これらのことから、今回の試験ではNS88Aが有望であると考えられた。また、耐倒伏性についての比較は

できなかったが、O816は着雌穂高が低く耐倒伏性が
高いのではないかと考えられた。

表2 生育調査成績

系統名	発芽期 月日	発芽 良否	初期 生育	雄穂 抽出期	絹糸 抽出期	収穫期 熟度	稈長 cm	着雌 穂高	着雌穂 高率%	不稔率 %	倒伏率 %	南方さび病 無0-5甚	虫害 %
P3470	7.20	1	1	9.5	9.7	10.17	221	103	46.6	0	0	2.5	0
KD772	7.20	1	1	9.7	9.9	10.17	226	101	44.7	0	0	3.8	0
TX128	7.20	1	1	9.6	9.8	10.17	229	98	42.8	0	0	4.0	0
O816	7.20	1	1	9.7	9.9	10.17	217	98	45.2	0	0	3.5	0
NS88A	7.20	1	1	9.7	9.9	10.17	221	108	48.9	0	0	2.3	0

表3 収量調査成績

系統名	生草収量(kg/a)			乾物収量(kg/a)			対標比 %	乾雌穂 重割合%	栄養収量(kg/a)		TDN 割合 %
	茎葉	雌穂	総重	茎葉	雌穂	総重			DCP	TDN	
P3470	428	147	576	80.1	69.8	149.8	-	46.6	8.5	105.9	70.7
KD772	428	157	586	86.1	66.6	152.7	101.9	43.6	8.6	106.7	69.9
TX128	369	163	533	79.5	76.8	156.4	104.4	49.1	9.0	111.5	71.3
O816	414	154	568	85.4	66.2	151.6	101.2	43.7	8.5	106.0	69.9
NS88A	459	175	634	89.0	82.3	171.3	114.4	48.0	9.8	121.8	71.1

1) - 3 二期作とうもろこし (二作目)

草地飼料科：園田裕司・山下恒由

要 約

試験期間中、気象条件に恵まれ倒伏などの物理的被害もなく、全品種とも順調な生育を示した。刈り取り時の生育ステージは、全品種とも乳熟後期までであった。乾物収量が高い品種は、TX128, P3008で、乾物雌穂重割合はKD772, KD811が高かった。南方さび病は、全品種に発生したが、発生程度は同程度で、程度は軽微であった。

結 言

サイレージ用とうもろこしの二期作 (二作目) 用品種について、収量性、耐倒伏性、耐病性等を調査し、本県における適応性を検討し奨励品種選定の参考に資する。

(2) 殺虫剤 ダイアジノン粒剤 (播種直後)
NAC粒剤 (生育中期)

5) 栽培管理

補 植 9月10日

間引き 9月10日

中耕・培土 9月10日

試験方法

1. 試験期間

平成8年8月19日～12月9日

2. 試験場所

長崎畜産試験畑 (雲仙系火山灰土・埴壤土)

3. 供試品種

表1に示す。

表1 供試品種 (二作目)

No.	流通品種名	系統名	販売会社名
1	標準 ゴールドアントKD772	KD772	カネコ
2	ロイヤルアントTX128	TX128	タキイ
3	バイオニア3008	P3008	全農
4	ゴールドアントKD811	KD811	カネコ

4. 試験規模

1区9㎡3反復

5. 耕種概要

1) 播種期 平成8年8月19日

2) 耕種法 畦幅75cm, 株間20cm, 3粒点播1本仕立て

3) 施肥量 (kg/a)

基肥 N:1.0, P₂O₅:1.5, K₂O:1.0

追肥 N:0.5, K₂O:0.5 (5-6葉期)

苦土石灰 10 堆肥 200 ようりん 4

4) 薬剤散布

(1) 除草剤 プロメトリン・メトラクロール粉粒剤 (播種直後)

結果及び考察

1. 気象概要

試験期間中、平均気温はほぼ平年並みに推移したが、最高気温はやや低めに、最低気温はやや高めであった。

降水量は、10月が少雨だった他はほぼ平年 (約470mm) 並であった。日照時間は9月にやや多く、11月は少なかった。

2. 生育概要

気候に恵まれ、全品種とも順調な生育を示し、倒伏の発生はみられなかった。雌穂の稔実は良好であったが、生育ステージが乳熟後期までしか到達しなかったため、乾物収量が全品種とも低かった。

3. 生育及び収量成績

1) 登熟性: 全供試品種が、乳熟後期までの生育ステージであった。

2) 耐病性: 南方さび病は、全供試品種について発病が確認された。しかし、発生程度は同程度であった。

3) 収量性: 乾物収量において、標準品種のKD772を上回った品種はP3008, TX128であった。KD811は標準品種並の乾物収量であった。乾物雌穂重割合は標準品種のKD772を上回ったものはなかった。

4. 総合評価

耐倒伏性の評価はできなかった。収量性では乾物収量、乾物雌穂重割合それぞれに品種の特性があり、有望な品種を選定することは困難であった。今後の継続検討が必要である。

表2 生育調査成績

系統名	発芽期 月日	発芽 良否	初期 生育	雄穂 抽出期	絹糸 抽出期	収穫期	収穫期 熱度	稈長 cm	着雌 穂高	着雌穂 高率%	不稔率 %	倒伏率 %	虫害 %	南方さび病 無0-5甚
KD772	8.23	1	1	9.5	9.7	12.9	乳後	201	79	39.3	0	0	0	0.7
TX128	8.23	1	1	9.7	9.9	12.9	乳後	228	94	41.2	0	0	0	0.7
P3008	8.23	1	1	9.6	9.8	12.9	乳後	234	107	45.7	0	0	0	0.5
KD811	8.23	1	1	9.7	9.9	12.9	乳後	204	84	41.2	0	0	0	0.5

表3 収量調査成績

系統名	生草収量 (kg/a)			乾物収量 (kg/a)			対標比 %	乾雌穂 重割合%	栄養収量 (kg/a)		TDN 割合 %
	茎葉	雌穂	総重	茎葉	雌穂	総重			DCP	TDN	
KD772	422	115	537	91.8	24.7	116.5	-	21.2	6.0	74.4	63.9
TX128	421	104	519	104.8	22.2	127.0	109.0	17.2	6.4	79.9	62.9
P3008	459	141	588	107.0	26.2	133.2	114.3	19.6	6.8	84.5	63.5
KD811	407	105	512	89.4	22.7	112.1	96.2	20.2	5.7	71.3	63.6

2) スーダングラス

草地飼料科：緒方剛・濱口博之・山下恒由

要 約

スーダングラスの細茎タイプとスーダン型ソルガムを加えた太茎タイプに分類して検討した。気象は周期的に変わり、多雨であるがやや多照の年であり、生育は全般的にやや不良だった。病害は、1番草で条斑細菌病、2番草で紫斑点病、3番草でひょう紋病がみられたが、生育に大きな影響はなかった。乾物収量は、細茎タイプでは標準品種を上回るものではなく、太茎タイプではグリーンエースが最も多取だった。

緒 言

スーダングラスの主要市販品種について、生育特性、収量性、耐病性等を調査し、ロールベールに適した品種選定の参考に資する。

ヘイスーダンの出穂初期を目安にした。

6) 栽培管理

播種時：ネキリムシ防除（ダイアジノン5%粒剤2.0)

6/25：除草

試験方法

1. 試験期間

平成8年5月10日～11月1日

2. 試験場所

長崎県畜産試験場畑（雲仙系火山灰土・埴壤土）

3. 供試品種

細茎タイプ：ヘイスーダン（標準品種）他4品種

太茎タイプ：ドライスーダンⅡ他6品種

4. 試験規模

1区6.25m² (2.5×2.5m)，3反復

5. 耕種概要

1) 播種期

平成8年5月10日

2) 播種量及び播種法

300g/a，畦幅50cmの条播

3) 施肥量 (kg/a)

基肥 N:1.0, P₂O₅:1.5, K₂O:1.0

追肥 (6～7葉期) N:0.5, K₂O:0.5

(各刈取後) N:0.7, K₂O:0.7

土壤改良資材 堆肥:200, 苦土石灰:10,

苦土重焼燐:6

4) 施肥方法

基肥：播種溝作条前に全面散布

追肥：6～7葉期及び刈取直後に畦際に施用

結果及び考察

5) 刈取時期

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は、全般的にほぼ平年並に推移した。降水量は5, 7, 10月は平年値をかなり下回ったが、6月は平年値をかなり上回り、8, 9月はほぼ平年並みで多雨の年であった。日照時間は6, 10月を除いて平年を上回り、特に5, 9月が多く、やや多照の年であった。

2) 生育概要

栽培期間を通じて生育がやや不良だった。病害は1番草で条斑細菌病、2番草で紫斑点病、3番草でひょう紋病がみられたが、生育に大きな影響はなかった。

2. 生育特性及び収量性

1) 細茎タイプ

(1) ベストスーダン

発芽、初期草勢及び再生はやや不良で、草丈は低かった。また、糖度は高く、条斑細菌病に強かった。さらに、乾物収量は標準品種を下回り、最も低取だった。

(2) 乾草スーダン

発芽、初期生育及び再生は比較的良好で、草丈はやや低かった。また、糖度、耐病性は標準品種並だった。さらに、乾物収量は供試品種中では最も高かったが標準品種を下回った。

(3) ベールスーダン

発芽、初期生育及び再生はやや不良で、草丈は標準品種並だった。また、糖度は低かったが、乾物葉重割合は高く、耐病性は最も強かった。さらに、乾物収量は標準品種を下回った

2) 太茎タイプ

(1) ドライスーダンII

発芽、初期生育及び再生は比較的良好だった。また、草丈、糖度は中庸で、ひょう紋病にやや弱かった。さらに、乾物収量はやや高かった。

(2) ウルトラソルゴー

発芽及び初期生育は比較的良好だったが、再生はやや不良だった。また、草丈は高く、糖度は低く、条斑細菌病、紫斑点病にやや弱かった。さらに、乾物収量は高かった。

(3) パイオニア988

発芽及び初期生育は比較的良好だったが、再生はやや不良だった。また、草丈は中庸で、糖度、乾物葉重割合はやや高かった。さらに、乾物収量は供試品種中で最も低収だった。

(4) サマーベラー細茎

発芽、初期生育及び再生は比較的良好だった。また、草丈、乾物葉重割合は低く、糖度は低かった。さらに、乾物収量はやや低かった。

(5) グリーンホープ

発芽、初期生育及び再生はやや不良だった。また、草丈は低く、糖度はやや高く、乾物葉重割合は中庸だった。また、乾物収量は中庸だった。

(6) グリーンエース

発芽、初期生育及び再生はやや不良だった。また、草丈は高く、糖度、乾物葉重割合は低かった。さらに、乾物収量は供試品種中で最も多収だった。

表1. 初期生育及び刈取り時の生育状況

項目 品種	発芽 良否	初期 生育	刈取り時生育ステージ			草丈 (cm)			稈径 (mm)			茎数 (本/m ²)			糖度 (%)		
			1番	2番	3番	1番	2番	3番	1番	2番	3番	1番	2番	3番	1番	2番	3番
ヘイスーダン (標)	1.0	1.0	7/15 出穂期	8/27 出穂初	11/1 出穂初	232	285	284	7	8	8	144	111	111	3.4	5.8	5.7
ベストスーダン	2.3	1.0	出穂期	出穂初	出穂初	204	275	267	8	8	8	171	133	95	5.4	6.5	7.0
乾草スーダン	1.0	1.3	出穂期	出穂初	出穂初	214	273	251	8	8	7	158	100	91	4.1	6.5	5.5
ペールスーダン	3.0	1.7	出穂初	止葉期	止葉期	236	288	275	9	8	8	116	113	96	2.2	5.1	2.6
ドライスーダンII	3.0	4.0	7/16 止葉前	8/27 止葉期	11/1 止葉期	235	262	258	9	10	9	116	93	91	2.5	3.3	4.4
ウルトラソルゴー	3.0	3.3	止葉前	止葉期	止葉期	248	265	266	10	10	10	100	89	73	2.3	3.2	4.7
パイオニア988	1.7	3.3	出穂初	止葉期	止葉期	240	278	268	9	10	10	87	78	71	3.3	3.9	5.3
サマーペーラー細茎	1.7	2.7	出穂期	出穂初	出穂初	207	261	252	6	7	7	180	142	111	4.1	6.0	5.3
グリーンホープ	4.3	3.7	出穂期	出穂初	出穂初	224	283	287	10	10	10	84	62	35	3.6	4.2	3.3
グリーンエース	5.0	3.0	出穂初	止葉期	止葉期	258	292	289	12	10	10	69	62	51	2.6	3.3	3.7

注) 発芽良否: 1 (良) ~ 5 (不良), 初期生育: 1 (良) ~ 5 (不良), 稈径: 地上約10cmの節間中央部測定
糖度: 中央部の節間中央部測定

表2. 生育状況及び収量性

項目 品種	乾物業重割合 (%)			病害			再生		生草収量 (kg/a)				乾物収量 (kg/a)				対標比 (%)
	1番	2番	3番	1番	2番	3番	1番	2番	1番	2番	3番	合計	1番	2番	3番	合計	
ヘイスーダン	22.3	26.0	23.8	2.0	2.0	2.3	1.3	1.0	415	607	515	1537	87.0	120.6	128.8	336.4	-
ベストスーダン	17.3	19.7	28.3	1.0	2.0	3.0	1.7	1.7	355	579	397	1331	71.4	113.4	83.0	267.8	79.6
乾草スーダン	14.4	21.5	24.3	1.3	1.7	3.0	1.7	2.0	398	576	398	1372	80.0	124.2	90.4	294.6	87.5
ペールスーダン	32.0	32.6	26.4	1.3	1.3	1.3	3.0	3.7	461	575	373	1409	82.0	110.0	86.3	278.3	82.7
ドライスーダンII	27.3	33.0	33.4	1.0	1.7	2.7	3.0	2.3	581	765	502	1848	106.3	103.3	83.6	293.1	87.1
ウルトラソルゴー	23.4	36.2	31.9	3.0	3.0	2.0	4.0	3.3	607	745	530	1882	116.3	97.0	85.2	298.5	88.7
パイオニア988	26.9	34.9	28.9	0.0	1.3	2.0	3.7	4.3	436	688	500	1624	78.5	94.6	80.0	253.1	75.2
サマーペーラー細茎	18.0	19.3	29.4	0.0	0.7	2.0	1.0	1.0	361	573	399	1333	79.9	116.6	83.4	279.9	83.2
グリーンホープ	23.3	29.4	25.5	0.3	3.0	2.3	3.3	3.0	434	669	542	1645	86.1	103.9	100.9	290.9	86.5
グリーンエース	20.9	31.0	28.4	0.0	1.7	2.3	4.3	3.7	471	717	512	1700	120.6	103.9	92.9	317.4	94.4

注) 再生: 1 (良) ~ 5 (不良), 病害: 無 (0) ~ 31%以上50%以下 (3) ~ 71%以上 (5)

3) -1 イタリアンライグラス (平成7年度)

草地飼料科：緒方 剛・山下恒由

要 約

早生グループは発芽、初期草勢、再生がやや不良で、耐倒伏性は2番草で極早生グループのメリット、早生グループのワセアップが強く、早生グループのタチマサリが栽培期間を通じて強かった。乾物収量においては早生及び中晩生グループのトップ以外の供試品種を上回り、極早生グループではグリーンファーストが標準品種を下回ったものの、比較品種を上回り、メリットも比較品種とほぼ同収量だった。

緒 言

イタリアンライグラスの主要市販品種について、生育特性、収量性、耐病性等を調査し、奨励品種選定の参考に資する。

試験方法

1. 試験期間

平成7年9月12日～平成8年5月30日

2. 試験場所

長崎県畜産試験場畑 (雲仙系火山灰土・埴壤土)

3. 供試品種

極早生：サクラワセ (標準品種) 他4品種

早 生：ワセユタカ (標準品種) 他5品種

中晩生：ジャイアント (標準品種) 他5品種

4. 試験規模

1区6.3m² (3.0×2.1m), 3反復

5. 耕種概要

1) 播種期

平成7年9月12日

2) 播種量及び播種法

2倍体：200g/a 但しサクラワセ220g/a,

4倍体：300g/a, 畦幅40cmの条播

3) 施肥量 (kg/a)

基肥 N:1.0, P₂O₅:1.5, K₂O:1.0

追肥 N:0.5, K₂O:0.5

土壤改良資材 堆肥:200,

苦土石灰:15, ようりん:7

4) 施肥方法

基肥:播種溝作条前に全面散布

追肥:刈取直後に畦際に施用

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は、全般的に平年よりやや低く推移し、特に平成8年の4月が低かった。降水量は平成7年の9月、平成8年の3月が平年をかなり上回ったが、その他の月は平年をかなり下回り、特に平成8年の4、5月は少なかった。日照時間は平成8年の3月を除いて平年を上回った。

2) 生育概要

極早生グループにおいて、発芽、初期草勢及び再生がやや不良だった。耐伏性は、2番草において極早生グループのメリット、早生グループのワセアップが強く、早生グループのタチマサリは栽培期間を通じて強かった。

2. 生育特性及び収量性

1) 極早生グループ

(1) グリーンファースト

発芽、初期草勢及び再生はやや不良で草丈はやや低かった。また、乾物収量は標準品種をやや下回ったが比較品種を上回り、供試品種中では最も多収だった。

(2) メリット

発芽、初期草勢は比較的良好だったが再生はやや不良だった。草丈はやや高く、耐倒伏性は2番草でやや強かった。また、乾物収量は標準品種を下回ったが、比較品種とほぼ同収量で最も低収だった。

2) 早生グループ

(1) タチマサリ

発芽、初期草勢及び再生は比較的良好だった。草丈は標準品種並で、耐倒伏性が栽培期間を通じて強かった。また、乾物収量では標準品種をやや上回った。

(2) スーパーワセ
 発芽、初期草勢は比較的良好だったが再生はやや不良だった。草丈はやや低く、耐倒伏性は2番草でやや弱かった。また、乾物収量は標準品種をやや上回ったが、供試品種中では最も低収だった。

(3) ワセアアップ
 発芽、初期草勢及び再生は比較的良好だった。草丈は低く、比較品種並で耐倒伏性は2番草でやや強かった。また、乾物収量は標準品種を上回り、最も多収だった。

3) 中晩性グループ

(1) ワセキング

発芽及び初期草勢及び再生は比較的良好で、草丈

は標準品種並だった。また、乾物収量は標準品種をやや上回った。

(2) トップ

発芽、初期草勢は比較的良好だったが、2、3番草の再生はやや不良で、草丈は標準品種並だった。また、乾物収量は標準品種をやや下回り、最も低収だった。

(3) ゼット

発芽、初期草勢及び再生は比較的良好で、草丈は標準品種並だった。乾物収量は標準品種を上回り、最も多収だった。

表1. 初期草勢及び刈取り時の生育状況

グループ・品種	項目	発芽 良否	初期 草勢	刈取り時生育ステージ				草丈 (cm)				再生程度		
				1番	2番	3番	4番	1番	2番	3番	4番	1番	2番	3番
極 早 生	サクラワセ (標)	8	7	12/7 止葉初	3/27 出穂初	5/2 出穂期	-	90	94	91	-	7	6	-
	ミナミアオバ (比)	7	7	止葉初	出穂初	出穂初	-	92	96	89	-	7	5	-
	グリーンファースト	7	5	伸長期	伸長期	止葉期	-	83	94	85	-	5	5	-
	メリット	8	6	止葉初	止葉期	出穂初	-	94	96	87	-	6	4	-
早 生	ワセユタカ (標)	9	9	12/7 伸長期	3/27 伸長期	5/2 出穂期	5/30 出穂期	95	89	105	97	8	8	7
	タチワセ (比)	9	8	伸長期	伸長期	出穂期	出穂期	91	89	99	93	8	7	7
	タチマサリ	9	8	伸長期	伸長期	出穂期	出穂期	96	94	110	100	8	7	7
	スーパーワセ	9	8	伸長期	伸長期	止葉期	出穂期	93	86	100	93	7	6	7
	ワセアアップ	9	8	伸長期	伸長期	出穂期	出穂期	91	92	100	94	8	5	7
中 晩 生	ジャイアント (標)	9	9	12/15 伸長期	3/22 伸長期	5/2 伸長期	5/30 出穂期	93	88	101	90	8	8	7
	マンモスB (比)	9	8	伸長期	伸長期	伸長期	出穂初	91	95	102	100	8	8	8
	ワセキング	9	8	伸長期	伸長期	伸長期	出穂初	90	94	97	100	9	9	9
	トップ	9	8	伸長期	伸長期	止葉期	出穂期	95	88	97	89	8	7	7
	ゼット	9	8	伸長期	伸長期	伸長期	出穂初	91	94	104	101	8	8	9

注) 発芽良否、初期草勢、再生程度：極不良1～9極良

表2. 生育状況及び収量性

グループ・品種	項目	倒伏程度				生草収量 (kg/a)					乾物収量 (kg/a)					
		1番	2番	3番	4番	1番	2番	3番	4番	合計	1番	2番	3番	4番	合計	対標比(%)
極 早 生	サクラワセ (標)	1	3	5	-	423	607	306	-	1336	62.1	76.4	40.8	-	179.3	-
	ミナミアオバ (比)	2	2	2	-	461	556	289	-	1306	56.8	61.5	35.3	-	153.6	85.7
	グリーンファースト	1	3	2	-	443	605	290	-	1338	58.1	66.9	35.4	-	160.4	89.5
	メリット	1	1	2	-	453	559	276	-	1287	56.2	62.2	34.9	-	153.3	85.5
早 生	ワセユタカ (標)	1	6	9	1	446	691	416	278	1831	56.3	74.8	48.5	35.7	215.3	-
	タチワセ (比)	1	2	8	1	457	672	436	193	1758	61.7	72.2	55.0	26.6	215.5	100.1
	タチマサリ	1	1	2	1	450	721	417	226	1814	59.8	76.7	53.8	30.1	220.5	102.4
	スーパーワセ	1	8	9	1	459	676	484	235	1854	60.8	67.8	60.7	28.8	218.1	101.3
	ワセアアップ	1	3	9	1	457	697	437	270	1861	61.1	77.1	56.0	32.3	226.5	105.2
中 晩 生	ジャイアント (標)	1	9	9	1	505	747	532	270	2054	60.6	70.7	59.8	32.1	223.2	-
	マンモスB (比)	1	8	9	1	465	747	562	417	2191	54.8	70.6	54.7	43.7	223.8	100.3
	ワセキング	1	8	9	1	475	719	560	396	2150	58.1	70.0	58.1	39.1	225.3	100.9
	トップ	1	9	9	1	514	729	484	275	2002	58.6	67.9	44.1	30.5	201.1	90.1
	ゼット	1	9	9	1	458	756	692	401	2307	54.8	73.8	69.2	41.2	238.9	110.7

注) 倒伏程度：無1～9甚

3) - 2 イタリアンライグラス (平成8年度)

草地飼料科：緒方 剛・山下恒由

要 約

耐倒伏性は早生グループのタチマサリ、ニオウダチが強く、中晩生グループの供試品種全てが栽培期間を通じて強かった。乾物収量においては早生グループのニオウダチ、中晩生グループのスプリングロール以外の供試品種が標準品種を上回り、早生グループのワセアツプが標準品種とほぼ同程度だった。

緒 言

イタリアンライグラスの主要市販品種について、生育特性、収量性、耐病性等を調査し、奨励品種選定の参考に資する。

試験方法

1. 試験期間

平成8年9月17日～平成9年6月3日

2. 試験場所

長崎県畜産試験場畑 (雲仙系火山灰土・埴壤土)

3. 供試品種

極早生：サクラワセ (標準品種) 他4品種

早 生：ワセユタカ (標準品種) 他5品種

中晩生：ジャイアント (標準品種) 他5品種

4. 試験規模

1区6.3m² (3.0×2.1m), 3反復

5. 耕種概要

1) 播種期

平成8年9月17日 (極早生), 9月19日 (早生, 中晩生)

2) 播種量及び播種法

2倍体: 200g/a, 4倍体: 300g/a,

畦幅40cmの条播

3) 施肥量 (kg/a)

基肥 N:1.0, P₂O₅:1.5, K₂O:1.0

追肥 N:0.5, K₂O:0.5

土壤改良資材 堆肥:200,

苦土石灰:15, ようりん:7

4) 施肥方法

基肥: 播種溝作条前に全面散布

追肥: 刈取直後に畦際に施用

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は、全般的にはほぼ平年並に推移した。降水量は平成8年の1, 3, 4月が平年を上回ったが、その他の月は平年を下回り、特に平成8年の10, 12月及び平成9年の2, 5月は少なかった。日照時間は平成8年の10, 11月を除いて平年を上回り、特に平成8年の9, 12月及び平成9年の1, 2, 4月が多かった。

2) 生育概要

耐倒伏性は、早生グループのタチマサリ、ニオウダチ、中晩生グループの供試品種全てが栽培期間を通じて強かった。

2. 生育特性及び収量性

1) 極早生グループ

(1) メリット

発芽は比較的良好だったが、初期草勢及び再生はやや不良で、草丈はやや低かった。また、乾物収量は標準品種をやや下回ったが比較品種を上回り、供試品種中では最も多収だった。

(2) ワセホープⅢ

発芽、初期草勢及び再生は比較的良好で、草丈は低かった。また、乾物収量は標準品種を下回ったが、比較品種を上回った。

2) 早生グループ

(1) タチマサリ

発芽、初期草勢及び再生は比較的良好だった。草丈は標準品種並で、耐倒伏性が栽培期間を通じて強かった。また、乾物収量では標準品種を下回り、最も低収だった。

(2) ニオウダチ

再生は比較的良好だったが、発芽及び初期草勢は

やや不良だった。草丈はやや低く、耐倒伏性は栽培期間を通じて強かった。また、乾物収量は標準品種を上回り、供試品種中では最も多収だった。

(3) ワセアツプ

発芽、初期草勢及び再生は比較的良好だった。草丈は低く、比較品種並で耐倒伏性は3番草でやや強かった。また、乾物収量は標準品種とほぼ同程度だった。

3) 中晩性グループ

(1) ワセキング

発芽及び初期草勢及び再生は比較的良好だった。草丈は比較品種並で、耐倒伏性は栽培期間を通じて

やや強かった。また、乾物収量は標準品種をやや上回った。

(2) ゼット

発芽、初期草勢及び再生は比較的良好だった。草丈は標準品種並で、耐倒伏性は栽培期間を通じて強かった。また、乾物収量は標準品種を上回り、最も多収だった。

(3) スプリングロール

発芽、初期草勢は比較的良好だったが、再生はやや不良だった。草丈は低く、耐倒伏性は栽培期間を通じてやや強かった。乾物収量は標準品種をやや下回り、最も低収だった。

表1. 初期草勢及び刈取り時の生育状況

グループ・品種	項目	発芽 良否	初期 草勢	刈取り時生育ステージ				草丈 (cm)				再生程度		
				1番	2番	3番	4番	1番	2番	3番	4番	1番	2番	3番
極 早 生	サクラワセ (標)	8	8	12/16 伸長期	3/12 伸長期	4/23 出穂期	-	86	95	98	-	7	7	-
	ミナミアオバ (比)	8	8	伸長期	伸長期	出穂期	-	81	92	92	-	7	7	-
	グリーンファースト	8	6	伸長期	伸長期	出穂初	-	82	91	91	-	6	6	-
	メリット	8	7	伸長期	伸長期	出穂初	-	80	89	89	-	7	8	-
早 生	ワセユタカ (標)	8	8	12/7 伸長期	3/18 伸長期	4/24 伸長期	5/19 出穂期	85	105	102	83	9	8	8
	タチワセ (比)	8	8	伸長期	伸長期	出穂初	出穂期	83	108	95	74	9	7	8
	タチマサリ	8	9	伸長期	伸長期	出穂初	出穂期	85	112	99	79	9	7	8
	スーパーワセ	5	7	伸長期	伸長期	伸長期	出穂期	77	107	96	74	9	8	8
	ワセアツプ	8	9	伸長期	伸長期	伸長期	出穂初	86	102	98	72	8	8	8
中 晩 生	ジャイアント (標)	8	9	12/15 伸長期	3/22 伸長期	5/1 伸長期	6/3 出穂期	91	97	100	91	9	7	7
	マンモスB (比)	8	9	伸長期	伸長期	伸長期	出穂期	83	105	102	102	9	8	8
	ワセキング	9	9	伸長期	伸長期	伸長期	出穂初	83	107	105	102	8	8	8
	トップ	8	8	伸長期	伸長期	伸長期	出穂期	81	101	105	101	9	9	9
	ゼット	9	9	伸長期	伸長期	伸長期	出穂期	79	105	103	98	8	7	7

注) 発芽良否, 初期草勢, 再生程度: 極不良1~9極良

表2. 生育状況及び収量性

グループ・品種	項目	倒伏程度				生草収量 (kg/a)					乾物収量 (kg/a)					
		1番	2番	3番	4番	1番	2番	3番	4番	合計	1番	2番	3番	4番	合計	対標比(%)
極 早 生	サクラワセ (標)	3	4	3	-	409	547	266	-	1203	58.8	70.9	43.3	-	173.0	-
	ミナミアオバ (比)	3	5	2	-	342	593	255	-	1190	41.4	66.8	37.7	-	145.9	84.3
	メリット	3	6	1	-	368	576	258	-	1202	46.7	70.2	38.4	-	155.3	89.8
	ワセホープⅢ	3	4	2	-	393	552	282	-	1227	46.4	66.5	41.0	-	153.9	89.0
早 生	ワセユタカ (標)	5	5	6	1	404	670	346	164	1584	71.2	86.3	46.2	23.2	226.9	-
	タチワセ (比)	5	1	1	1	424	716	310	123	1573	61.9	85.2	39.3	17.7	204.1	90.0
	タチマサリ	3	1	1	1	409	653	292	131	1485	52.7	78.4	36.6	19.4	187.1	82.5
	ニオウダチ	1	1	1	1	397	697	354	160	1608	88.8	78.4	43.4	22.6	233.2	102.8
	ワセアツプ	4	6	1	1	461	702	349	139	1651	76.8	80.1	43.8	21.6	222.3	98.0
中 晩 生	ジャイアント (標)	1	7	9	6	516	766	543	282	2107	131.6	75.4	54.6	37.3	298.9	-
	マンモスB (比)	2	1	7	6	509	710	574	377	2170	144.1	70.3	55.0	49.7	319.1	106.8
	ワセキング	1	3	5	1	504	705	557	355	2121	153.6	71.7	55.7	44.8	325.8	109.0
	ゼット	1	1	5	5	489	680	530	337	2036	177.9	72.2	53.2	42.1	345.4	115.6
スプリングロール	2	1	6	5	411	617	422	276	1726	118.1	74.0	47.6	38.6	278.3	93.1	

注) 倒伏程度: 無1~9甚

4) 青刈麦類

草地飼料科：濱口博之・園田裕司・山下恒由

要 約

大麦の奨励品種が取扱中止となったので、えん麦に加え、大麦の試験を再開した。病害は、さび病がみられ、えん麦のサビツヨシにやや強い抵抗性がみられた。乾物収量は、えん麦ではエンダックスが標準品種を上回ったが、大麦では標準品種のワセドリを上回るものはなかった。

緒 言

えん麦、大麦の主要市販品種について、本県での適応性を検討し、奨励品種選定の参考に資する。

試験方法

1. 試験期間

平成8年9月4日～12月24日

2. 試験場所

長崎県畜産試験場畑（雲仙系火山灰土・埴壤土）

3. 供試品種（系統）

えん麦：ハヤテ（標準品種）他7品種、

大 麦：ニシノチカラ（標）他3品種、3系統

4. 試験規模

1区6.0㎡（2.0×3.0m）、3反復

5. 耕種概要

1) 播種期

えん麦：平成8年9月4日、

大 麦：平成8年9月9日

2) 播種量及び播種法

600g/a、畦幅50cmの条播

3) 施肥量（kg/a）

基肥 N：0.6, P₂O₅：0.9, K₂O：0.6

土壤改良資材 堆肥：200, 苦土石灰：12, 苦土重焼燐：4

追肥は無施用とした。

4) 施肥方法

基肥：播種溝作条前に全面散布

5) 栽培管理

播種時：ネキリムシ防除（ダイアジノン5%粒剤0.7kg/a）

結果及び考察

1. 一般経過概要

1) 気象概要

平均気温は、全般的にほぼ平年並に推移した。降水量は平年値を下回り、特に10、12月はかなり下回る少雨の年であった。日照時間は周期的に変わり、9、12月は平年を上回り、10、11月は平年を下回るやや日照の年であった。

2) 生育概要

えん麦、大麦共にさび病がみられたが、生育に大きな影響はなく、えん麦ではサビツヨシにやや強い抵抗性がみられた。

2. 生育特性及び収量性

1) えん麦

(1) スーパーハヤテ

出穂期が最も早く、刈取時の生育ステージもやや早かった。また、乾物率乾物穂重割合は高かったが、乾物重は標準品種を下回った。

(2) サビツヨシ

出穂期は標準品種と変わらなかったが、刈取時の生育ステージはやや早かった。また、乾物率、乾物重は標準品種より低かったが、耐病性は標準品種よりやや強く、乾物重、乾物穂重割合は高かった。

(3) エンダックス

出穂期は標準品種よりやや遅く、刈取時の生育ステージは標準品種並だった。また、穂の乾物率、総乾物率が供試品種中で最も低い、耐倒伏性が最も強く、乾物葉重割合、乾物重は最も高かった。

(4) はえいぶき

出穂期は標準品種より早く、刈取時の生育ステージも最も早かった。また、乾物穂重割合は最も低く、乾物重は標準品種を下回ったが、穂の乾物率、総乾物率が供試品種中で最も高かった。

2) 大麦

(1) アズマゴールデン

出穂期は標準品種よりかなり遅く、刈取時の生育ステージも遅かった。また、穂長はやや長く、生草重は標準品種を上回ったが、乾物率、乾物重は標準品種を下回った。

(2) ダイセンゴールド

出穂期は標準品種よりかなり遅く、刈取時の生育ステージもやや遅かった。また、穂長はやや長く、生草重は標準品種を上回ったが、乾物率、乾物重は標準品種を下回った。

(3) 西海皮54号

出穂期、刈取時の生育ステージは最も遅かった。また、穂長はやや長く、生草重は標準品種を上回ったが、稈長は最も短く、乾物率、乾物重は標準品種を下回り、最も低収だった。

(4) 西海皮55号

出穂期は供試品種(系統)中最も早く、刈取時の生育ステージは標準品種並だった。また、稈長は短く、穂長は標準品種並で、生草重は最も低かったが、乾物率は最も高く、乾物重は供試品種中で最も多収だった。

(5) 西海皮56号

出穂期はかなり遅く、刈取時の生育ステージは最も遅かった。また、稈長は最も短く、穂長はやや長く、生草重は供試品種中最も高かったが、乾物率は供試品種中で最も低く、乾物重は最も低収だった。

表1. えん麦の生育特性と収量性

項目 品種	発芽期 月/日	刈取日 月/日	刈取 ステージ	穂乾物 率(%)	耐病性 (サビ病)	耐倒 伏性	草丈 (cm)	総生草重 (kg/a)	総重乾 物率(%)	総乾物重 (kg/a)	耐標比 (%)	乾物穂重 割合(%)
ハヤテ(標)	10/28	12/24	乳熟中	39.1	2.0	3.0	112.2	688	15.1	100.9	-	17.7
ウエスト(比)	10/28	12/24	乳熟中	40.0	1.3	3.0	115.7	643	14.6	93.9	93.1	26.8
アーリークイーン(比)	-	12/24	未乳熟	29.8	1.3	3.0	120.2	685	12.9	88.4	87.6	11.0
スピードスワロー(比)	10/28	12/24	乳熟中	40.6	1.7	3.0	112.4	679	15.0	101.9	101.0	14.6
スーパーハヤテ「隼」	10/21	12/24	乳熟後	43.4	1.7	3.0	117.7	606	16.5	100.0	99.1	28.1
サビツヨシ	10/28	12/24	乳熟後	42.6	1.5	2.7	114.7	690	14.0	96.6	95.7	29.8
エンダックス	10/30	12/24	乳熟中	38.3	1.7	2.3	123.1	746	13.8	102.9	102.0	30.4
はえいぶき	10/25	12/24	糊熟初	46.1	2.0	3.0	118.0	553	16.8	92.9	92.1	22.6

注) 耐病性, 耐倒伏性: 無0~5甚

表2. 大麦の生育特性と収量性

項目 品種	出穂日 月/日	刈取日 月/日	刈取時 ステージ	出穂 程度	稈長 (cm)	穂長 (cm)	病害 (サビ病)	倒伏 程度	生草重 (kg/a)	乾物率 (%)	乾物重(kg/a)			対標比 (%)
											茎葉	穂重	総重	
ワセドリ(標)	10/25	12/24	糊熟中	5.0	91	7.7	1.3	1.7	428	22.4	63.7	32.2	95.9	-
アズマゴールデン	11/22	12/24	乳熟中	4.0	86	8.4	2.0	1.0	456	18.3	67.0	16.4	83.4	87.0
ダイセンゴールド	11/15	12/24	糊熟初	4.2	88	8.2	1.7	1.0	511	15.8	66.5	14.2	80.7	84.2
西海皮54号	12/2	12/24	乳熟初	3.0	74	8.1	1.0	1.7	485	16.0	61.9	15.7	77.6	80.9
西海皮55号	10/28	12/24	糊熟中	5.0	76	7.8	2.0	2.3	377	23.1	49.6	37.5	87.1	90.8
西海皮56号	11/22	12/24	乳熟初	3.0	74	8.2	2.7	1.7	485	15.3	53.1	21.1	74.2	77.4
ニシノチカラ(参)	11/15	12/24	乳熟中	5.0	85	8.5	1.3	1.0	536	14.8	54.3	25.0	79.3	82.7

注) 耐病性, 耐倒伏程度: 無0~5甚, 出穂程度: 無0~5多